

科目名	生体力学						
科目名(英)	Biomechanics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	園田 剛之		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 運動力学の基礎を理解し説明できる。2. 運動の法則、剛体に働く力を説明できる。3. 人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。4. 動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動力学の基礎を理解し説明できる。	
	○	○				運動の法則、剛体に働く力を説明できる。	
	○	○				人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。	
	○	○				動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動力学の基礎① 生体力学とは… ・力学の単位				小テスト対策 授業ノート復習	
	2	運動力学の基礎② 力学の構成				小テスト対策 授業ノート復習	
	3	運動力学の基礎③ 力の合成と分解				小テスト対策 授業ノート復習	
	4	剛体に働く力① モーメント(トルク)				小テスト対策 授業ノート復習	
	5	剛体に働く力② てこの種類				小テスト対策 授業ノート復習	
	6	剛体に働く力③ 関節角度と力の関係				小テスト対策 授業ノート復習	
	7	運動の法則① 運動の3つの法則				小テスト対策 授業ノート復習	
	8	運動の法則② 重力加速度と重量				小テスト対策 授業ノート復習	
	9	重心と支持基底面				小テスト対策 授業ノート復習	
	10	姿勢と筋活動				小テスト対策 授業ノート復習	
	11	歩行動作と床反力①				小テスト対策 授業ノート復習	
	12	歩行動作と床反力②				小テスト対策 授業ノート復習	
	13	演習問題・国家試験対策①				小テスト対策 授業ノート復習	
	14	演習問題・国家試験対策②				小テスト対策 授業ノート復習	
15	全体復習とまとめ				これまでの授業ノートを復習しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	藤澤 盛生		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(下肢・体幹)を修得し、下肢関節の運動学的特徴と正常歩行の運動学的特徴を理解することを目標とする。また講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				下肢・体幹の各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				正常歩行の運動学的特徴について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎敦 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:骨単(語源から覚える解剖学英単語集) 4)河合良訓 監:肉単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	上肢帯復習①				シラバス内容を事前に確認しておくこと	
	2	上肢帯復習②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	体幹・下肢帯の構造 脊柱と骨盤の関係				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	骨盤 股関節の構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	股関節の安定要素と運動要素(筋の走行)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	膝関節 構造と運動の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	膝関節の安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	足部 各関節の構造の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	足部の運動名称と導く筋の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	脊柱の構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	脊柱・体幹の筋と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	歩行動作に関する運動力学の基礎				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	正常歩行の歩行周期・関節運動・筋活動				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
15	全体復習+試験対策				これまでの授業資料を復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)各单元ごとに小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				40%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医学部教員		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	2	病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	3	内因と外因・病気の分類				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	4	組織損傷と組織反応				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	5	損傷治癒				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	6	炎症と免疫				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	7	移植とアレルギー				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	8	1)再生医療、2)感染症				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	9	循環障害				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	10	代謝障害1				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	11	代謝障害2				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	12	先天異常				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	13	腫瘍1				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	14	腫瘍2				授業内容に該当するビデオを事前に視聴学習することを必須とする。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床薬理栄養学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	花田 輝代・片岡 彩子		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について学ぶ。	
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 POSのためのリハビリテーション栄養 リハベシック 薬理学・臨床薬理学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	薬理学総論				教科書にて復習する。	
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)				教科書にて復習する。	
	3	薬の作用に影響する因子				教科書にて復習する。	
	4	感染・炎症の制御と薬物療法				教科書にて復習する。	
	5	神経疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	6	精神疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	7	循環器系疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	8	血栓症の薬物療法				教科書にて復習する。	
	9	栄養の基礎:5大栄養素の役割				教科書にて復習する。	
	10	栄養の基礎:運動時の栄養、栄養不良時の栄養				教科書にて復習する。	
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて				教科書にて復習する。	
	12	主な病態の栄養療法:低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム				教科書にて復習する。	
	13	主な疾患の栄養療法:中枢神経疾患				教科書にて復習する。	
	14	主な疾患の栄養療法:整形外科疾患				教科書にて復習する。	
	15	主な疾患の栄養療法:呼吸・循環器疾患、がん				教科書にて復習する。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	内科学						
科目名(英)	Internal medicine						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形態	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	診断と治療・症候学			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	2	循環器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	3	循環器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	4	循環器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	5	呼吸器疾患 総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	6	呼吸器疾患 各論1			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	7	呼吸器疾患 各論2			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	8	消化器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	9	肝胆膵疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	10	代謝性疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	11	腎・泌尿器疾患総論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	12	腎・泌尿器疾患各論			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	13	血液・造血器疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	14	膠原病・アレルギー疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
	15	感染症疾患			学習した疾患について復習して理解を深めること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	1 単位	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	3	脳Ⅸ神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	4	脳Ⅸ神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	9	感覚系			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	10	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	12	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	13	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	15	まとめ①(7回~12回)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学					
科目名(英)	Psychiatry					
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	島田 洋	
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年生					
授業概要	本科目では、精神機能の理解から精神疾患の特徴について具体的な症状を含め説明していく。また精神疾患に対する治療法、経過からリハビリテーションにおける対応について学ぶ。また保健、福祉制度について理解していく。					
授業形態	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				精神機能や代表的な精神疾患の概要について説明できる。
	○	○				代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。
	○	○				精神疾患の方々への医療福祉制度について説明できる。
テキスト・教材 参考図書	教科書:上野武治著、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 医学書院					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	精神障害の概念・分類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	2	精神機能、精神症状(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	3	精神機能、精神症状(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	4	精神機能、精神症状(3)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	5	脳器質性精神障害、症状性精神障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	6	精神作用物質による障害、てんかん				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	7	統合失調症				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	8	気分(感情)障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	9	神経症性障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	10	パーソナリティ障害など				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	11	知的障害・発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	12	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	13	治療とリハビリテーション				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
	14	精神保健医療、福祉、メンタルヘルス				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。
15	まとめ講義				国家試験等	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	◎	◎			
	小テスト					
	宿題・レポート					
発表・作品						
評価割合						
履修上の注意						

科目名	評価学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	刀坂 昌輝		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	徒手筋力検査は、理学療法に必須の知識技術です。この検査は対象者の身体を検査者が直接実施する必要があることから、実技を中心に講義を進めます。本講義終了時には、各検査・測定項目の実技体験を通して、評価の項目と内容(意味)と必要性について説明・実施できることを目標とする。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			筋力測定の意義を知り、各筋に対して評価が実施できる。	
		○	○	○		安全に配慮して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動機能検査 筋力 総論(臨床技能と検査技術)				教科書の予習しておく。	
	2	肩関節における筋力検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	肘関節・手関節における筋力検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	上肢:その他の検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	OSCE(客観的臨床技能試験) 総論				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	OSCE(客観的臨床技能試験:上肢)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	股関節運動における筋力検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	膝関節・足関節運動における筋力検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	下肢:その他の検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	OSCE(客観的臨床技能試験) 総論				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	OSCE(客観的臨床技能試験:下肢)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	頸部・体幹における筋力検査				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	実技総復習				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	実技総復習				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	全体復習とまとめ				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
評価方法	(1)小テスト(2)実技テスト(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○	◎			60%
	実技テスト		◎	◎	◎		20%
	小テスト			○	○		20%
履修上の注意	繰り返しの練習が理解につながるので積極的な取り組みをお願いします。						

科目名	日常生活活動学 I						
科目名(英)	Activities of daily living						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 「ADLの概念と範囲」を説明できる。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3. 補装具の名称、部位の名称、機能、用途が説明できる。 4. 基本的動作の介助方法(全介助)について説明できる。						
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。	
	○	○				日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学の評価について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。	
○	○	○	○		日常生活活動学における基本動作を指導できる。		
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社: Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学 PTOTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲			教科書の予習をしておく。		
	2	ADLとQOL・ADLに対する支援・ADL評価の概要(評価の目的)			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	3	ADL評価の概要(評価方法)			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	4	代表的な評価指標 Barthel Index			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	5	代表的な評価指標 FIM			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	6	中間テスト					
	7	補装具 杖、歩行器			教科書の予習をしておく。		
	8	基本動作 意義、目的、臥位、寝返りの指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	9	基本動作 寝返りの指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	10	基本動作 起き上がりの指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	11	基本動作 立ち上がりの指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	12	基本動作 車椅子の移動指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	13	基本動作 車椅子移乗の指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
	14	基本動作 車椅子移乗の指導			前回の復習及び教科書の予習をしておく。		
15	全体復習			今までの総復習をしておく。			
評価方法	(1)各授業内容の振り返りとして課題ノートを提出する。(2)前半のまとめとして中間テストを実施する(3)定期試験(筆記)を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	中間テスト	○	○				15%
	課題・レポート・実技	○	○	○	○		15%
履修上の注意							